

令和元年度第1回浦安市子ども・子育て会議議事録

- 1 開催日時 令和元年6月25日(火) 18:30~20:00
- 2 開催場所 浦安市役所4階 S2, 3会議室
- 3 出席者
(委員) 大日向会長、新藤委員、男全委員、佐々木委員、田村委員、伊藤委員、吉田委員、大塚委員、岡本委員、上内委員、谷口委員
(事務局) 健康こども部 岡部部長、大塚次長
こども課 村田課長、鈴木課長補佐、安永、水島
保育幼稚園課 三代川課長、宇田川課長補佐、杉本係長、多田係長
青少年課 平林課長、小泉課長補佐、石井係長
母子保健課 高柳課長、早川課長補佐
こども家庭支援センター 熊川所長、八田副主幹
東野児童センター 斉藤所長
こども発達センター 梅澤所長

4 議事

- 1) 小規模保育事業所の新規開設施設について 資料1
- 2) 基礎調査結果からの課題について 資料2-1、2-2
- 3) 第二期市町村子ども・子育て支援事業計画等における「量の見込み」の算出等の考え方について 資料3-1
- 4) その他

会議経過

1. 開会

- 事務局： これから浦安市子ども・子育て会議令和元年度第1回会議を始めます。
本日15名の委員のうち、11名の委員の方に出席いただきました。浦安市子ども会議条例により過半数を超える出席がありましたので、本日の会議が成立していることをご報告します。
情報公開について、この会議は公開することとなっており、手続きにより傍聴することができます。また、本会議はHPにより公表されます。
- 会長： 皆様こんばんは。早速ですが、議事に入らせていただきます。

2. 議事1：小規模保育事業所の新規開設施設について

- 事務局： 資料1について説明

会長： ありがとうございます。ただ今のご説明について、質問やご意見がありましたらお願いいたします。特に意見がないようですので、以上の報告について各委員からの承認をいただいたこととします。

3. 議事2：基礎調査結果からの課題について

事務局： 資料2-1、資料2-2に基づいて説明。

会長： ありがとうございます。

今の説明に関しまして、何かご質問やご意見はございますか。

委員： 課題整理1ページの課題1に関して、母親に子育ての負担が増えているという回答が、就学前調査・小学生調査ともに増加している。要因として考えられるのは、父親の関与が少なくなっていること、両親等の親族の手伝いが少なくなっていること等があると思うが、浦安市における要因が何かを考えることが重要であると思う。また、孤立化への考え方として、核家族化は近年の流れではないので、それ以外にも要因があるのではないかと思う。問題解決のためには要因の明確化が大切なので、分析を検討して行ってほしい。また、課題3について、病児病後児事業を利用したくない理由として、他人に看てもらうことが不安という意見がある。そういった意見に対して、事業や支援への信頼の回復や不安を取り除くための対処法の検討、正しい情報公開・情報提供の実施等、検討して行ってほしい。また同様に、預け先がなく用事を諦めた方への対応に関しても、対策が必要と思う。

会長： 孤立化に関する核家族化以外の要因を分析することは重要でございます。浦安市は転入者が多いことも要因の1つなのではないでしょうか。

委員： 浦安市は転入者が多いのは事実と思う。浦安市は、乳児の頃は支援やサポートが充実しているが、幼児のお友達作りはどうしたらいいか、という声が多い。特に2歳児以降への手厚い支援を検討してほしい。

会長： 今回実施した調査をどのように施策に反映していくかが重要となると思います。今の意見にもございましたが、浦安市で2歳児以降の孤立化がみられるのであれば、そういった施策もしっかりと検討すべきではないでしょうか。

委員： 放課後の居場所に関する部分で、児童育成クラブの対象は、なぜ小学生1～4年生のみなのか。高学年においても利用意向があるのにも関わらず、児童育成クラブは4年生までとなっている。また今回実施した調査も対象は4年生までであり、5～6年生の意向としては、今回の調査は参考にしにくい部分があると思う。なぜ児童育成クラブは4年生までなのか理由を教えてください。

事務局： 現在、児童育成クラブの対象は1～4年生児童と特別な支援が必要な児童となっている。受け入れに関しては、施設のキャパシティとの兼ね合いもあり、現在の対象とさせていただいている。5、6年生の受け入れは義務化されている部分ではないので、支援が必要と思われる低学年から順に受け入れし、1～4年生を対象としている。対して、放課後異年齢児交流促進事業は1～6年生の全学年を対象とさせていただいている。また、児童育成クラブは、保護者が就労している方が対象となっていることをご承知おきいただけると幸いです。

- 委員： アンケート報告書に記載のあるグループヒアリング結果について、ここで様々なご意見を拾うことができていると思う。切実な声もみられ、実際に子ども・子育てに携わる方からの声は重要であるので、大切にしてほしい。また、計画策定の中で対応・検討するというよりも、すぐに対応を開始できるものもあるのではないか。市役所のトイレの入口幅、エンゼルヘルパーの対象年齢等、すぐ対応できる部分は対応して行ってほしい。
- 委員： 一時預かりや、宿泊を伴う一時預かり等が利用できず、用事を諦めたという回答があった。自分自身も子育て支援が手厚いという理由で、浦安市に転入してきた身であり、実家が近くになく、頼れる親族や友人もない現状があった。そういった方にも情報が届くよう、広報を含めて情報発信を行って行ってほしい。この子ども・子育て会議に出席してから知った情報も多くある。
- 会長： 前回の会議において市民調査の回収率が低く、市民の意見としての代表制に関する意見がありました。それに対し今回、対母集団の回収率を記載してありますが、そうではなく、母集団がどのくらいの大きさかがわかるとよいという対応を求めていますので、対母集団の回収率は記載しないほうがよいと思います。また、母親の負担要因として母親の就労状況も影響してくると思います。より深い分析が必要です。132ページの市民アンケート部分の就労状況については、男性と女性の年齢別の結果が必要です。母親に育児負担が大きいという結果は、トレンドと逆行した流れであり、私としても気になっております。

4. 議事3：第二期市町村子ども・子育て支援事業計画等における「量の見込み」の算出等の考え方について

- 事務局： 資料2-1、資料2-2に基づいて説明。
- 会長： ありがとうございます。
今の説明に関して、何かご質問やご意見はございますか。
- 委員： 0歳児の需要について、できれば育児休業を取りたいという人が多いと思う。そういった実情を考えることも大切だと思う。アンケートでは0歳児保育の希望もあるが、そういった結果のみで施策や事業の検討を行うのはどうなのか。
- 会長： 資料に「育児休業の取得状況の実態等を踏まえ、適切に算出」という部分があります。育児休業の取得が多いから、そこを反映して事業量等を検討することが必要という内容で間違いありませんか。
- 事務局： その通りである。

5. 議事4：その他

- 各委員： これまでの会議等に関して各委員から感想をいただいた。
- 会長： 本日の予定の議事はすべて終了いたしましたので、本日の会議は、これで終了とさせていただきます。お忙しい中、ありがとうございました。

以上